

青森県ハンセン病普及啓発事業

第5回 松桜コンサート

沢 知恵 ピアノ弾き語り

—いのちのうた ころろのうた—



3月9日(土) 2019年
13:30開場 14:00開演

アメイジング・グレイス
ころろ
故郷
早春賦
人生の贈り物 ほか

Tomoe Sawa

入場無料
予約不要

※未成年の入場はご遠慮ください。小学生以上は大歓迎です。

国立療養所 松丘保養園
多目的ホール 青森市大字石江字平山19

沢 知恵 (さわ ともえ)

歌手。1971年生まれ。日本、韓国、アメリカで育ち、3歳よりピアノを弾く。1991年東京芸術大学在学中に歌手デビュー。現在まで〈谷川俊太郎をうたう〉など27枚のアルバムを発表。1998年日本レコード大賞アジア音楽賞受賞。「日本語をもっと美しくうたう歌手」と呼ばれ、迫力あるピアノ弾き語りパフォーマンスは、世代を越えて支持されている。ハンセン病療養所、災害被災地、少年院などでも積極的に活動している。おもなテレビ出演「徹子の部屋」「顔名のない音楽会」など。おもな著書『世界がステージ!』(岩波ジュニア新書)『私のごすべるくろにくる』(新教出版社)など。

主催：青森県 一般財団法人 松丘保養園松桜会

お問い合わせ：松丘保養園 電話 017-788-0145

第5回松桜コンサート ピアノ弾き語り 「いのちのうた ころのうた」によせて

沢 知恵

このたびは一昨年についで再び松丘保養園でコンサートができることを、心からうれしく光栄に思います。

全国には13カ所のハンセン病国立療養所があります。青森が最北端で、最南端は沖縄です。

私は生後6か月の赤ちゃんのとき、瀬戸内海にある大島青松園を初めて訪ねました。もちろん、記憶はありません。

父が学生時代にひと夏を大島青松園の教会で伝道師として過ごし、その後、牧師になりました。親しい交流があった大島青松園のみなさんに、かわいいお嫁さんと赤ちゃんを見せたかったのだと思います。

ところが、父は周りの反対にあったそうです。「赤ちゃんを連れて行くなんて」と。それが当時の誤った認識でした。

後遺症はのこりましたが、ハンセン病そのものは、薬の発見でとっくに全員完治していました。もともと感染力がさわめて弱いこと、遺伝性でもないことは、知られていませんでした。国は強制隔離をつづけ、社会の差別・偏見は厳しいものがありました。父は反対をふりきって、私を抱いて香川県の高松から船に乗りました。大島の棧橋は大フィーバーだったそうです。子どもを療養所で見ることは珍しいことでした。みなさんの視線は釘付けだったことでしょう。療養所で夫婦になっても、子どもを持つことがゆるされなかったみなさんは、どんな思いでいらしたか。

父が亡くなって、約20年ぶりに大島青松園に行ったのは、1996年でした。ちょうど「らい予防法」が廃止された年です。私は「はじめまして」のつもりが、みなさん、涙で歓迎してくださいました。「知恵ちゃん、知恵ちゃん、大きくなったね。よう来たね」と。人が人をおぼえている

愛の大きさに圧倒されました。

以来、大島青松園は私の「故郷」になり、2001年からは毎年コンサートをしています。おかげさまで、今年で19回目を重ねます。

2012年には、大島青松園で生涯を過ごした大詩人、塔和子さんの詩を弾き語ったアルバム（かわらなければ～塔和子をうたう）を発表しました。

そして、2014年には、終わりのゆく大島青松園の最後に寄り添いたくて、長く暮らした千葉県から岡山県に移住しました。瀬戸大橋を渡って、

いまは月に2～3回遊びに行っています。

私に人とかわかる醍醐味を教えてくださいました入所者のみなさんが、最後まで力強く、やすらかに生をまっとうされる姿に、感動する日々です。

コンサートは、ちがいを持つ人がひとつになれる場です。ぜひこの機会に松丘保養園にいらしてください。みなさんがよくご存知のうたもうたいます。春を感じられるようなあなたかいついひとときにしたいです。

お待ちしております。



沢 知恵 大島青松園コンサート2018



大島で生まれ育った子どもたちといっしょに《故郷》をうたう

国立療養所 松丘保養園 多目的ホール

青森市大字石江字平山19

☎017-788-0145

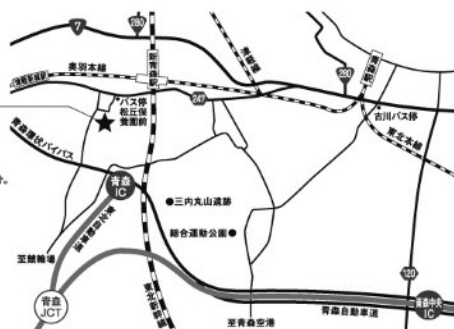
●JR新青森駅南口から徒歩15分、タクシーで5分。

●東北自動車道青森インターチェンジから6分。

●青森空港からタクシーで20分。

●JR新青森駅南口から西部営業所行きに乗車し、

松丘保養園前下車、徒歩3分。



胸の泉に

塔和子

かわらなければ

この愛しさを知るすべはなかった

この親しさは湧かなかった

この大らかな依存の安らいは得られなかった

この甘い思いや

さびしい思いも知らなかった

人はかわかることからさまざまな思いを知る

子は親とかかわり

親は子とかかわることによって

恋も友情も

かわかることから始まって

かわつたが故に起こる

幸や不幸を

積み重ねて大きくなり

くり返すことで磨かれ

そして人は

人の間で思いを削り思いをふくらませ

生を綴る

ああ

何億の人がいようと

かわらなければ路傍の人

私の胸の泉に

枯れ葉いちまいも

落としてほくれぬ